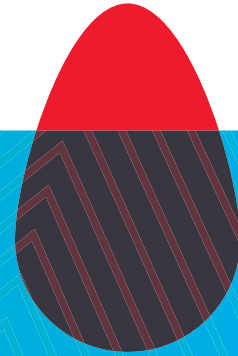


Blood Testing

ドーピング検査(血液)



クリーンなアスリートであることを、
証明するために。

ドーピングの手法が巧妙化している今、
尿検体だけで潔白を証明することが難しくなっています。
アスリートとして血液検査に対する心構えも必要です。

検査手順と注意点

アスリートは、自分がクリーンであることを証明するために、いつでも・どこでも検査に対応する責務があります。

ドーピング検査(血液)の手順と注意すべき点を知り、疑問や不安をクリアにしていきましょう。

不安なこと、気になることがあれば、気軽にドーピング検査員(ドーピング・コントロール・オフィサー:DCO)に聞いてください。



採血前に運動をしていた場合は、運動終了後2時間待機した後の採血となります。

※分析によっては、運動終了後であっても2時間待たずに採血できる場合もあります。



待 機

1

ドーピング検査は国際基準に則って行われます。DCOから検査通告を受けたら「通告書」にサインをし検査を開始します。その後、検査室に到着したら椅子に座って両足が地面についた状態で10分間安静にします。リラックスした状態で座ってもかまいません。

注意

- ・10分間の安静中に立ち上がると、その後座った時点から再度10分間安静に座り続けることが求められます。
- ・18歳未満のアスリートは、成人の同伴者を連れてくる必要があります。



書類作成・体調確認

2

DCOから渡された重要事項などが記載された書類をよく読み、必要事項を記入してください。医師・看護師の採血者から問診が行なわれますので体調不良やアレルギーなどは申し出てください。

注意

- ・採血時の器具でアレルギー反応を起こしてしまう方がいます。ゴムやアルコールにアレルギー反応がある方は、事前に伝えてください。
- ・過去の採血時に気分が悪くなったことがある、失神したことがある方は、事前に伝えてください。



キット選び・確認開封

3

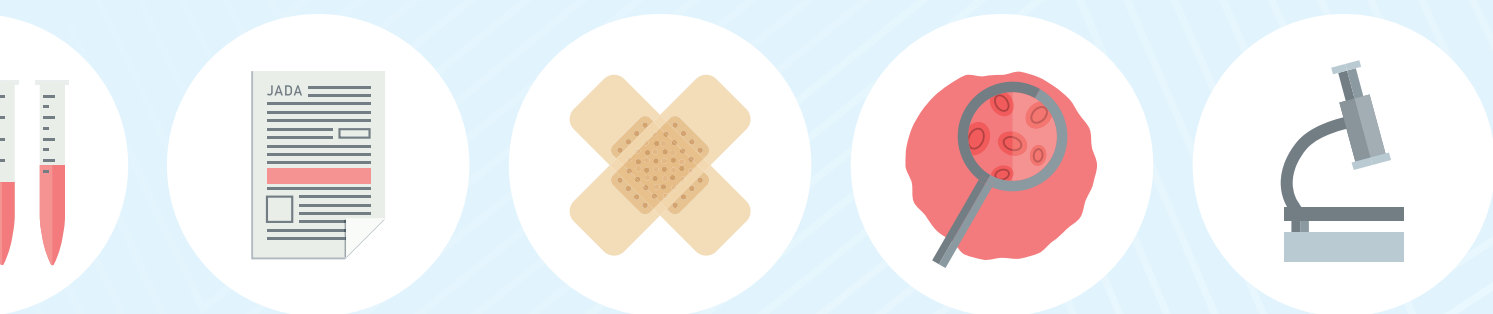
検査に使用する器具を複数の中から選び、器具に不審な点(傷や開封された形跡など)がないことをしっかり確認してください。またバーコードシールとキットの検体番号のチェックも必要です。問題がなければキットを開封し、手続きに則り、机の上に置いてください。



検体番号の確認



キットの開封



血液採取・止血

4

採血を行う方の腕を採血者と相談して決めてください。採血後、絆創膏を貼りますので、採血者の指示をしっかりと聞き、絆創膏の上から指で押さえて止血しましょう。



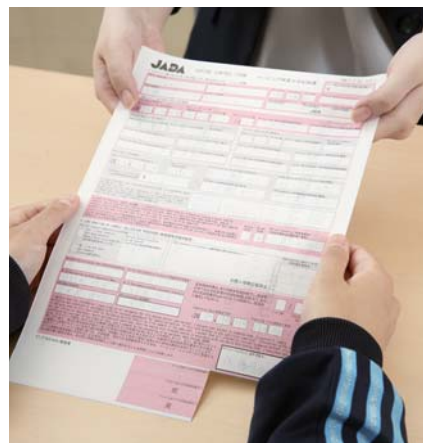
検体番号の確認
検体の袋詰め

5

採血管に貼られた検体番号とキットのフタ、ボトルの番号がすべて一致していることを確認し、カチカチという音が鳴らなくなるまでフタを締めDCOに提出してください。封印されたボトルをDCOが輸送用のビニール袋に入れます。



止血作業が終わったら、採血者が採血管に検体番号の貼付をします。



書類作成・控えの受取

6

必要事項を記入し、書類を完成させます。都度、サインを求められますが、必ず書類内容に間違いがないか確認の上、署名してください。書類の控えを受け取り、検査終了。控えは検査履歴管理の目的で、自身でしっかり保管・管理することをお勧めします。

注意

- ・採血者の指示に従ってください。
- ・採血の際はリラックスしてください。
- ・内出血予防のため、採血後30分間は採血した腕を激しく使う運動等は避けてください。

注意

- ・必ず書類内容を確認してから、サインしてください。
- ・検査中、不審に思った点や気になることがあった場合、コメントとして記録に残すことができます。

血液検査Q&A

Q 通常の採血と違いはあるの？

A 病院等で行われる採血と同じです。
肘の正面にある静脈から採取します。
※採血者の判断で変更となる可能性があります。

Q どのくらいの量を採取するの？
競技に支障は出ない？

A 3～20ml程度(採血管1～4本)です。
最大20ml程度の採血では競技に
支障がでないと言われています。

Q 血液採取は怖いので
尿検査にしてもらえる？

A 指定された採取検体の変更はできません。
検体提供の拒否はアンチ・ドーピング規則違反と
判断される可能性があります。

Q ABPってなに??

A アスリートバイオロジカルパスポート (Athlete Biological Passport: ABP) といい、アスリートから経時的に検体を採取し分析する検査方法。1回のドーピング検査において禁止物質・禁止方法の存在が検出されなかったとしても、経時的な検査データで異常な変化が検出され、それが禁止物質・禁止方法の使用の結果であることが証明されると、アンチ・ドーピング規則違反となります。

！ 注意 ！ ABPは血液検査、尿検査どちらでも実施されています。

Q 検査はいつ行われるの？

A 競技会検査、競技会外検査があります。
尿検査同様、原則、検査の事前通告はありません。

Q 毎回、尿と血液両方とるの？

A どちらか一方の場合もあれば、
両方の検体を採取する時もあります。
両方の検査を行う際、採取の順番は
DCOの指示に従ってください。

Q 尿検査同様、
飲み物は飲んでもいいの？

A 尿検体採取の時同様、飲み物は検査室に
用意しています。用意している以外の飲み物は
自己責任で飲んでください。

ABPの検査値グラフィメージ



薬に関する正確な情報をもう！

アンチ・ドーピングの安心トライアングル

薬の成分や禁止物質・禁止方法について、「Global DRO」と「スポーツファーマシスト」を
上手に活用して正確な情報を確認しよう。

- スポーツファーマシスト** 最新のアンチ・ドーピングに関する知識・情報を持つ、JADA公認の薬の専門家(薬剤師)。
- Global DRO** WEBやスマートフォンで、薬の成分に禁止薬物が含まれていないか検索が可能。



アンチ・ドーピングに関するWEBサイト

JADA

アンチ・ドーピングに関する大切なお知らせ

アスリートサイト

血液検査をはじめ、アスリートにとって必要な情報を掲載した特設サイト